

講義名	観光事業論			授業形態			
担当教員	金 承珠	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 1時限				
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード	
主題と概要							
「観光事業」は、政府や地方自治体、観光を可能とする各種製品やサービスを提供する民間企業、地域住民など多様なステークホルダーの連携によって行われて社会的・経済的・文化的効果が高く、観光の効用や諸効果を促進するための活動の総称とも言える。本講義では着地型観光やニューツーリズムを取り上げ、実例を交えながら観光事業の重要性を理解し、観光事業の社会的役割や意義および在り方について学ぶことを目的とする。							
到達目標							
1. 観光事業の定義について説明できるようになる。 2. 旅行業・宿泊業・運輸旅客業の仕組みや特徴、課題について理解する。 3. 観光事業の仕組みや経営方法を把握して理解することができるようになる。 4. 現代社会における観光事業の可能性について説明できるようになる。							
提出課題							
課題レポートは、提出期限を厳守すること。期限を過ぎた場合は、いかなる事由があっても受け付けません。							
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法							
講義の約10分前に講義内容の理解を確かめるため講義毎に質問・コメント表作成を行います。 翌週の講義では前回の講義内容に関する質問等に対してできるだけ回答します。							
評価の基準							
・授業回数の3分の1(5回)以上を欠席すると評価を受ける資格がなくなります。（遅刻は、2回で1回の欠席としてカウントする。） ・課題のレポートは、指定した内容でのレポートを提出。 ・評価については、授業態度（ミニッツ・ペーパー提出等）30%、課題レポート30%、期末テスト40%で総合的に評価する。 ・毎回の出席確認は、responを用いて実施します。 ・「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、出席は無効とします。							
履修にあたっての注意・助言他							
・教室内での私語および飲食、不要な出入り、携帯電話の使用などは禁止します。（摘発時退室） ・授業開始から20分後の入室は禁止します。							
教科書							
.使用しない。							
参考図書							
.なし。							

その他	
・テキストは使用せず、レジュメや資料中心に授業を進めます。 ・講義の理解に役立つ文献や資料等は随時、授業中に紹介します。	
授業計画	
1 ガイダンス 2 観光と観光事業(観光事業の概念、観光事業の意義と観光産業) 3 観光事業の現状(マストツーリズムからニューツーリズムの基盤) 4 ニューツーリズムにおける地域資源の活用(観光対象と観光資源) 5 ニューツーリズムの事例①ヘルスツーリズム 6 ニューツーリズムの事例②エコツーリズム 7 ニューツーリズムの事例③グリーンツーリズム 8 ニューツーリズムの事例④コンテンツツーリズム 9 ニューツーリズムの事例⑤ダークツーリズム 10 ニューツーリズムの事例⑥産業ツーリズム 11 ニューツーリズムの事例⑦文化ツーリズム 12 観光事業における人材育成 13 持続可能な観光と観光事業 14 観光事業の課題と方向性 15 まとめ	
授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。（90分程度） ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。（90分程度） ・復習はレジュメに基づいて、しっかり行ってください。	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
目標（１）（２）の達成により、観光事業の全体を理解し、自ら課題を発見し解決する能力を身につけ、課題解決や価値創造に向けた行動へと導くことができる。目標（２）（３）（４）の達成が、ホスピタリティ・マネジメントを理解し、コミュニケーション能力の向上につながる。全目標に取り組むことで「観光事業」とは向かを考え、観光事業が及ぼす社会的・経済的役割を理解し、観光事業としての地域振興、マーケティングなどの分析による事業実現や課題、今後の展望や方向性などの知識を身につけることができる。	
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
オンライン授業は動画配信によって実施します。授業動画のURL、配付資料等、必要な連絡はRyukaポータルの「講義連絡」で行います。講義に関する質問に対してはメールやレスポンスでも対応することにします。	
実務経験の有無及び活用	
備考	
シラバスの内容は場合によって変更の可能性があります。	